

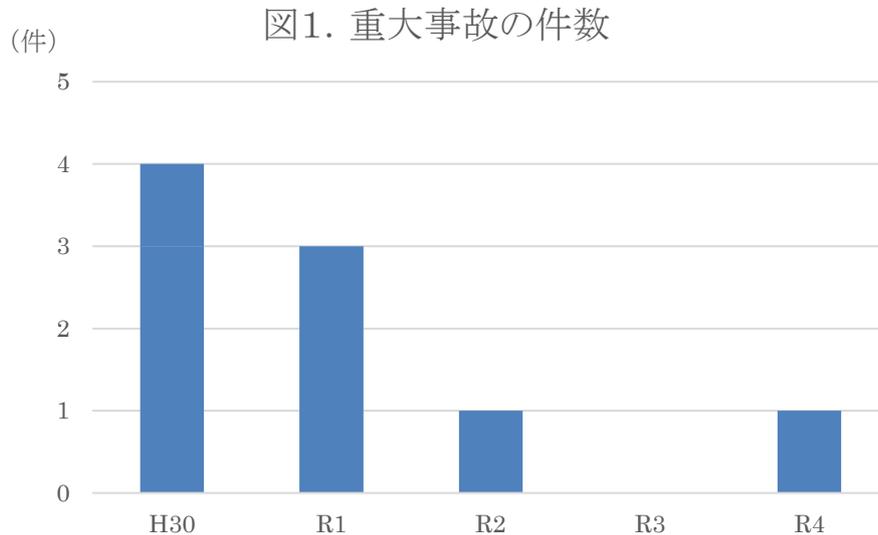
火薬類関係の事故発生状況
＜直近5年間（H30～R4）の事故発生状況＞

令和5年3月14日
産業保安グループ
鉦山・火薬類監理官付

1. 重大事故の発生状況

- 平成30年から令和4年までの5年間における重大事故^(※)は、B1級事故：9件が発生（A級事故：0件）。
- B1級事故の年別内訳は、平成30年4件、令和元年3件、令和2年1件、令和4年1件（図1）。

※重大事故：「産業保安事故対応マニュアル、火薬類事故対応 実施細目(令和3年5月20日)」に規定するA級及びB1級事故。
※H30～R2の件数には、重大事故として「テレビ・新聞等の取扱い等により著しく社会的影響・関心が大きいと認められるもの」を含めている。



「火薬類事故対応 実施細目（令和3年5月20日～）」（抜粋）

(1) A級事故

- ① 死者5名以上のもの
- ② 死者及び重傷者が合計して10名以上であって、①以外のもの
- ③ 死者及び負傷者が合計して30名以上であって、①及び②以外のもの
- ④ 爆発・火災等により大規模な建物又は構造物の破壊、倒壊、滅失等の甚大な物的被害（直接に生ずる物的被害の総額が5億円以上）が生じたもの
- ⑤ 大規模な火災等が進行中であって、大きな災害に発展するおそれがあるもの

(2) B1級事故

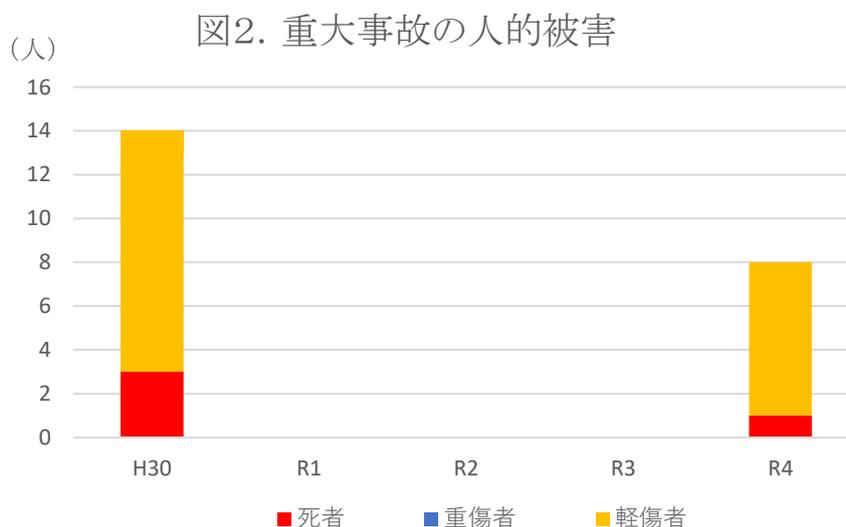
- ① 死者1名以上4名以下のもの
- ② 重傷者2名以上9名以下であって、①以外のもの
- ③ 負傷者6名以上29名以下であって、①及び②以外のもの
- ④ 爆発・火災等により大規模な建物又は構造物の損傷等の多大な物的被害（直接に生ずる物的被害の総額が1億円以上、5億円未満）が生じたもの

※B1 級事故の一覧

	取扱別	発生日	発生場所	死者数	負傷者数 (重/軽)	事故概要
■平成 30 年						
1	煙火製造中	6 月	静岡県 浜松市	2	0 / 0	手筒花火の火薬を配合中、発火・爆発し、危険工室 2 棟が延焼。従業員 2 名死亡。
2	煙火消費中	7 月	岩手県 二戸市	0	0 / 1	花火大会中、打上花火が地上開発し、付近にいた高校生 1 名が火花による火傷で病院搬送。
3	産業火薬消費中	8 月	茨城県 桜川市	1	0 / 0	採石場で火薬庫内の爆薬約 1 トンが爆発し、従事者（火薬類取扱保安責任者）1 名が死亡。周辺住宅等 1 1 5 棟の窓ガラスも破損。
4	煙火消費中	10 月	茨城県 土浦市	0	0 / 1 0	花火大会中、打上花火が地上開発し、付近にいた観客 1 0 名が火傷による軽傷。
■令和元年						
1	煙火消費中	7 月	長野県 飯田市	0	0 / 0	花火大会中、小型煙火の打上げ筒が倒れ、観客方向に小型煙火が発射された。
2	煙火消費中	8 月	東京都 新宿区	0	0 / 0	スターマインの打上げ中、発射筒が横方向に倒れ、この発射筒からの花火が隣接道路を飛び越え開発し、観客が負傷（病院受診なし）。
3	煙火消費中	10 月	茨城県 土浦市	0	0 / 0	花火大会中、打上花火が地上開発し、観客 3 名が負傷（病院受診なし）。
■令和 2 年						
1	煙火消費中	6 月	北海道 札幌市	0	0 / 0	打揚花火の残滓が山中に落下し、枯草約 3 2 0 m ² を焼失。
■令和 3 年 （※重大事故なし）						
■令和 4 年						
1	産業火薬製造中	3 月	宮城県 延岡市	1	0 / 7	火薬類の製造作業中、爆発が発生し、作業員 1 名が死亡、周辺地区の 4 名を含む 7 名が軽傷。周辺建物にも多数の被害（資料 2 参照）。

2. 重大事故中における人的被害の発生状況

- ・平成 30 年に死者 3 名（煙火製造中 2 名、産業火薬消費中 1 名）・軽傷者 1 1 名（煙火消費中）の人的被害が発生。その後、令和元年から令和 3 年まで人的被害は発生しなかったが、令和 4 年に、死者 1 名・軽傷者 7 名（産業火薬製造中）の人的被害が発生（図 2）。



3. 令和4年に発生した火薬類の事故について

- ・火薬類取締法第52条第6項に基づき、都道府県知事等から報告のあった令和4年中に発生した火薬類の事故は、現時点で51件（R5.2末現在の暫定値であり、追加報告等があった場合には変更となる可能性あり）。
- ・このうち、A級及びB1級の重大事故は、火薬類の製造時に発生したB1級の爆発事故1件のみ（産業火薬）であり、これ以外の50件は、いずれもC級事故。全事故件数に占めるC級事故件数の割合は、新型コロナウイルス感染症が確認される前と大差なし。
- ・具体的には、トンネル工事における発破後の飛石、火薬の廃棄処理中における爆発、有害鳥獣駆逐用煙火使用中の破裂、花火大会における施設の焼損・枯草を焼く火災、がん具煙火による火災・火傷など。結婚披露宴におけるがん具煙火使用に伴う事故も発生。
- ・現在、公益社団法人全国火薬類保安協会にて、令和4年に発生した火薬類事故の原因及びその対応策の整理を進めており、その結果については、都道府県及び関係団体等、関係機関の協力を得つつ、関係事業者への周知を進める。
- ・なお、全51件の半数は煙火（花火）に係る事故であり、今春以降も花火大会の再開増が予想されるため、打揚時の事故や火災発生防止について、周知徹底を図る。

（火薬類取締法に基づき報告されたC級事故の例）

	発生月	発生場所	負傷者数 (重/軽)	事故概要
産業火薬	2月	兵庫県姫路市	0/2	碎石場内にて発破を行った際、想定していた方向とは別方向に多数の飛石が生じ作業員が負傷。
	8月	岩手県八幡平市	1/2	火薬の廃棄処理中、廃棄していた火薬が爆発し、作業員が負傷。
	9月	神奈川県相模原市	1/0	トンネル掘削工事における発破において、点火後、退避小屋から出た監視員に飛石が当たり負傷。
煙火	8月	福岡県久留米市	0/0	打揚花火が開発せず、近隣の弓道場に落下後開発し、弓道場が火災により全焼。
	9月	宮城県加美町	0/1	猪除けの有害鳥獣駆逐用煙火を専用手持ちホルダーを使用せずに使用したところ、製品が破裂し、右手の一部を負傷。
	12月	岡山県岡山市	0/5	披露宴での催し物として打揚用煙火を使用した際、同煙火が逆噴射し、付近の列席者が負傷。
がん具煙火	6月	大阪府泉大津市	0/0	通行人が立木から火の粉及び煙が出ているのを発見。現場に消費後のがん具煙火が残されていた。
	6月	広島県広島市	0/1	手持ち花火で遊んでいた女兒の衣服に、手持ち花火の火花が着火し負傷。
	8月	福岡県福岡市	0/0	複数人でがん具煙火を使用していたところ、周辺の木製パレット上に積まれたフレコンバックに火花が接触し出火。